

[¹⁸F]標識ピタバスタチン F1 誘導体-PET(ペット)検査を受けられる皆様へ

[¹⁸F]標識ピタバスタチン F1 誘導体 ([¹⁸F]PTV-F1) によるポジトロン断層撮影検査(PET)について説明申し上げます。

1. [¹⁸F]標識ピタバスタチン F1 誘導体-PET (ペット) 検査について

[¹⁸F]標識ピタバスタチン F1 誘導体 ([¹⁸F]PTV-F1 と略す) は放射性薬剤であり、スタチン系のコレステロール低下薬として広く臨床で用いられているピタバスタチンの類似物質で、有機アニオントランスポーターによって血液中から肝臓に取り込まれ、その後速やかに胆汁排泄されて、その後腸へと移行するという性質を持っています。 [¹⁸F]PTV-F1-PET 検査は、この [¹⁸F]PTV-F1 を静脈注射したあと専用の PET カメラで全身を撮影し、肝臓における有機アニオントランスポーターの機能の解析を目的とした検査です。

検査は、まず PET カメラ台に安静に寝てもらいます。検査薬剤を静脈注射して撮影を開始します。一回の検査時間は多くの場合 60-90 分前後で、その間はベッドに横になっているだけです。なお、この検査で使用する薬剤は当センターで定める短寿命放射性薬剤臨床利用委員会及び倫理委員会で安全性と運用に関する審査を受け承認されたものであり、安全性の基準を満たしたものです。

今回の調査は、健常の方を対象にしたものです。

2. 予想される検査の効果および副作用

あなたが万一、有機アニオントランスポーターの機能に異常などを持っているとわかった場合、この検査の結果は他の検査の結果と共に、医療従事者があなたにより適切かつ有効な医療サービスを提供するのに生かされる事になります。

今回の検査では PET-CT カメラで撮影できるように、ごく微量の放射線を出す物質 [F-18] が投与されますが、この検査によって浴びる放射線の量は、通常のレントゲン検査の場合とほとんど同じです。 [F-18] はおよそ 2 時間経過する毎にその放射エネルギーは半分に低下しますので、検査当日のうちに体の内部に残留する放射エネルギーは低値になり、検査翌日にはほぼゼロになります。この PET 検査で受けると予想される全身の放射線被ばく量は 1-2mSv/回であり、一般に腫瘍の検査として用いられている [F-18] FDG-PET 検査 (3.5mSv/回) よりも低いものと考えられます。

この検査では、血中の放射エネルギーや代謝物の確認のため、必要に応じて静脈からの採血を行う場合がありますが、採血量は 30mL 程度であり、体に影響を及ぼすほどの量ではなく心配ありません。

これら放射性薬剤によるポジトロン断層撮影検査(PET)に関しては、他の施設からこれまでのところ特に問題になるような副作用は報告されていません。しかし、もしも検査中に身体の具合が悪くなったり、異常を感じたような場合はすぐにお申し付け下さい。直ちに適切な処置を致します。

3. 医療費について

今回の PET 検査においては直接あなたに請求される費用はありません。

4. 調査への参加、拒否および撤回

調査に参加されるか否かは皆様の自由ですし、この調査に参加同意頂いた後でも参加を取りやめることができます。また、やめた場合でもその後の当センターでの診療に不利益を受けることは一切ありません。

5. 検査データの運用とプライバシーに関する問題

PET 検査に伴う検査結果等の個人情報は、厳重にお守りし、今回および今後の当センターでの PET 検査の向上のために利用させていただきます。

個人情報は、貴方様ご本人の同意なしに、第三者に開示することはありません。ただし、今後の医療の発展のために、学術的および疫学的調査のために医学会発表や医学雑誌発表などに応用させてもらう場合があることにご同意ください。その場合でも個人が特定されたり、あなたの不利益が生じたりするような情報は削除した上で公表することとしますのでご安心ください。

6. 同意書

同意書は署名の上、原本を診療録に 5 年間保管します。必要あれば、複写をお渡ししますので、ご自分でも保管いただけます。お申し出ください。

この調査に関して分からないこと、あるいは不安な点があれば、どんなことでも担当医師にお尋ね下さい。

滋賀県立成人病センター研究所
画像研究部門 (PET 検査)
担当 東 達也